

授業科目名	多文化社会の社会教育	担当教員	大谷 杏
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クォーター		
講義内容	<p>国境を越えた移動が増えるにつれ、多文化共生は多くの人びとにとって身近な問題となりつつある。日本も決して例外ではない。この講座では、それぞれの国や地域の状況を概観し、国内外の様々な社会教育施設（公民館、図書館、博物館）による共生へ向けた取り組みを学んでいく。多文化共生への対応は、その地域の持つ特性や外国人住民の居住の状況、また時代の変化によっても変わっていく。国内外の先進的な事例から、自分の住む地域で応用できることと、変えていく必要がある点について考えていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の地域の特性とその多文化的状況を把握することができる。 ・それぞれの地域が行っている取り組みから、多文化共生へのヒントを得ることができる。 ・自分が住む地域に当てはめた場合、どの程度応用可能かを予測することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、序章 2 第1章 協働・共創を支える「安心の居場所」 －内発的社会統合政策を拓く 3 第2章 地方都市部の社会教育ならびに施設における多文化共生活動 －静岡県磐田市南御厨地区を事例として 4 第3章 多文化社会における公民館の役割 難民申請者と地域住民の交流 －埼玉県川口市の住民の取り組みを事例に 5 第4章 二つの法体系が支える韓国の地域学習施設 －光州広域市における「教育」と「支援」の連携事例を中心に 6 第5章 成人移民へフィンランド語教育を提供する公共施設 －地域社会とのかかわりと学習以外の機能にも着目して 7 第6章 日本の多文化都市における図書館の取り組み －「多文化サービス」のあゆみと「安心の居場所」であるための提言 8 第7章 多民族国家シンガポールを支える図書館 －国民統合と多民族共生 9 第8回 移民・難民の暮らしに寄り添う公共図書館 －デンマークにおける取り組みに着目して 10 第9章 学校と博物館の連携の可能性 －先住民族について学ぶ「国立アイヌ民族博物館」 11 第10章 文化の由来を知る －「順益台湾原住民博物館」が担う社会的包摂機能 12 第11章 ニュージーランドにおける太平洋諸島移民の文化的学習 －博物館を中心に、授業のまとめ 		
事前・事後学習	<p>毎回予習として教科書の該当箇所を読み、Classroomを通して事前に感想を提出してください（初回は何もしてこないでOKです）。また、多文化共生に関係のあるテレビ番組、新聞記事などにも積極的に触れるようにしましょう。</p>		

テキスト	渡辺幸倫編著（2019）『多文化社会の社会教育—公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」』明石書店
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岩崎正吾編著（2018）『多文化・多民族共生時代の世界の生涯学習』学文社 ・山脇啓造、服部信雄編著、横浜市教育委員会、横浜市国際交流協会協力（2019）『新 多文化共生の学校づくり—横浜市の挑戦』明石書店 ・徳田剛、二階堂裕子、魁生由美子編著（2019）『地方発外国人住民との地域づくり』晃洋書房
成績評価の基準	<p>期末レポート（40%）</p> <p>事前課題（12%）</p> <p>授業への積極的な参加（48%）</p>
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	<p>履修定員超過の場合は選考を実施する。</p> <p>選考基準については、第1回のオリエンテーションで説明する。</p>